

● 令和4年3月 中間報告

これからの時代に求められる資質・能力を育成するための幼児教育指導

# 乳幼児期からの深い学びを支える 環境と素材・メディアの分析



公益財団法人  
日本教材文化研究財団

## はじめに

乳幼児期からの深い学びの経験のためには、何がもとめられるでしょうか。(公財)日本教材文化研究財団の保育研究部会では、令和元年度から子どもたちの挑戦、創造性、そして探究をテーマに深い学びにアプローチして研究してきました。今回は、子どもたちが夢中になって遊ぶことのできる「場」と、子どもと物や人を繋ぐ仲立ちとなる「メディア(媒介物)」に目をむけ、出来事としての遊びの発展を分析しました。

本リーフレットでは、「場」を中心に、子どもの経験の拡がりや深まりを考えてみています。場から子どもの経験のつながりを考え対話する一助になれば幸いです。



## 子どもの視座から

ここでは「場」は、物理的な場所を客観的にさすのではなく、子どもの視点から、子どもにとって物やこととの出会いから生まれる心理的なつながりや空間(スペース)をさしています。保育者と子どもたちの協働的な環境の構成や再構成によって、居場所ができ探究・探索が始まり、意味を付け、場が広がりつながっていく関係性の環(図1)のように捉えています。良質の幼児教育のために「社会に開かれた教育課程」を展開し、子ども自身の探究経験の軌跡として、遊びのプロセスと場から読み解いてみました。本中間報告(リーフレット)では、保育実践の一端をご紹介させていただきます。

## 安心・安定から保育者を仲立ちとした友達との場の共有へ

### 不安な気持ちを持つ子どもと保育者のアイコンタクト



横でお友達がスタンプを使い始めると、やってみたくなる。



何だろう、面白そうと寄ってきて、「やってみたいな」と始める。

## 深い学びを支える環境(場)と探究過程

- 子どもが遊びを通して、対象と出会い、時間の経過とともに変化する(させる)探究過程は、場や様々な保育材・道具などによって媒介される。出会いの場は他の場とつながり、広がっていくが、ICTはその広がりクラス・園を超えて地域社会・家庭とを容易につなげ、情報を伝える機能を持つ。
- 保育者の援助によって子ども同士がつながり、また保育者同士が探究を続ける園文化の中で「深い学びを支える環境(場)」が創出され探究過程を支える。

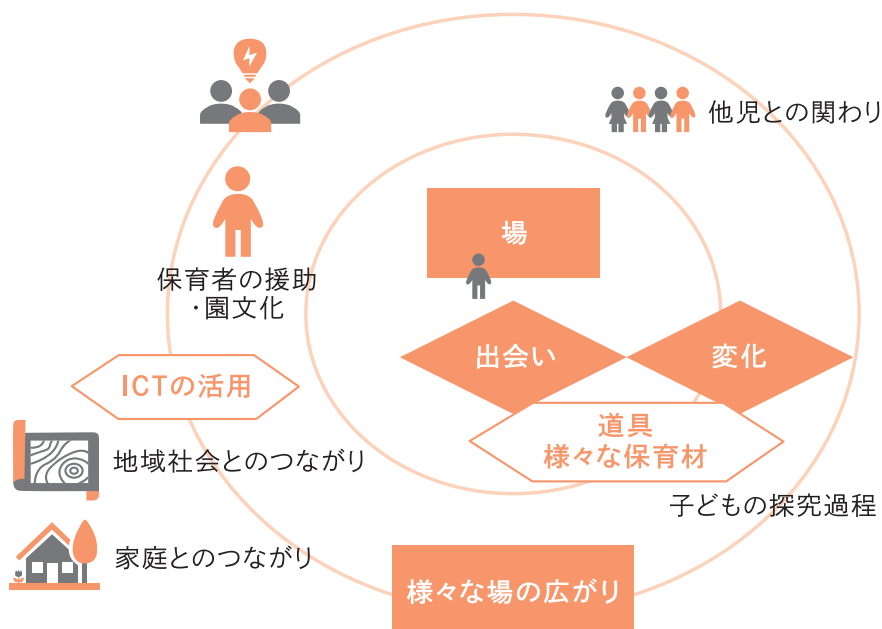
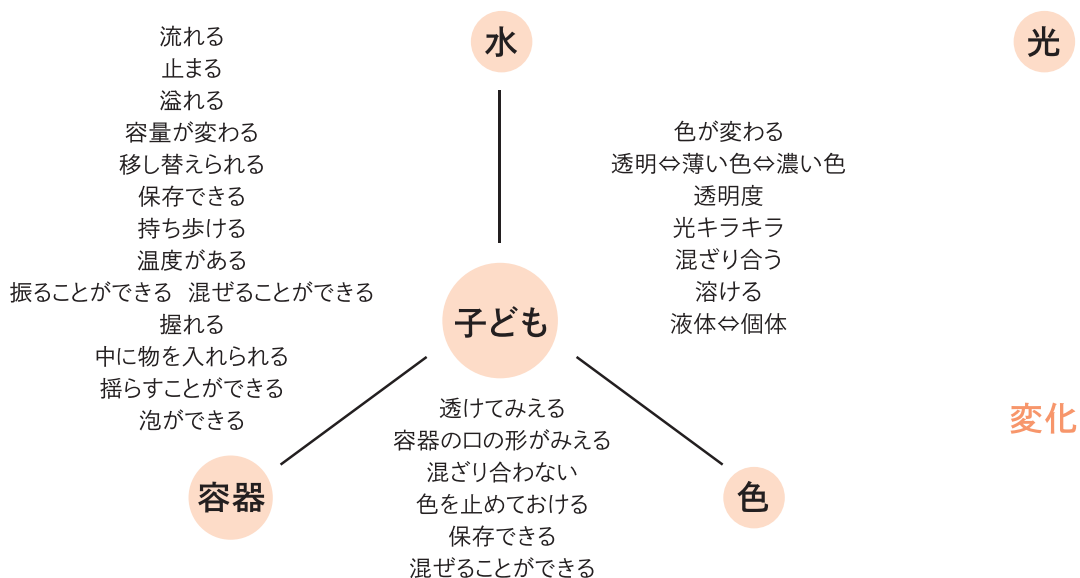


図1: 子どもの「深い学び」に関する実践報告のまとめ(中間報告)

## 深い学びの可能性 (例) 色水遊び



## 道具との出会い（例）はさみを使う

### 活動中での保育者の思い

- はさみの活動を単発的に、意図的に保育に入れるより、遊びの流れの中ではさみを使う機会があると子どもも夢中になる。  
→ 保育者が遊びを振り返った時に「あの時、はさみの活動につながったな」「あそこではさみを出してよかったな」と思えるかどうか。
- 遊びがより楽しいものになるよう、保育者がはさみで切る素材を工夫したり、紹介したり、提案したりしていきたい。それを出すタイミングにも気を付けたい。  
→ 一度経験したことが知識・技能として身に付き、次に自分で遊びに取り入れたり、応用したりしていくようになる。
- 夢中になっている遊びの中ではさみを使う機会があると、子どもは集中して取り組み、めきめきと上達する。
- 年齢に合った、ちょうどいい難しさにしたい。

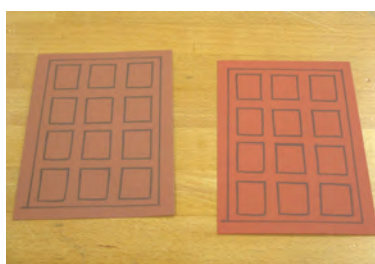


はさみを使って一度チョコレートの形に切ってから細かく切り、ポウルやミキサーに入れて料理をしている。

### 「お寿司屋さんごっこ」の中で…



### 「カフェごっこ」の中で…



### 七夕飾りを作る過程の中で…



左利き用も



## つなげて・保育室を超えて・広がって（例）線路をつなげて



初めての園生活。好きな遊びを見つけて楽しめるように、家庭での遊びと関連付きやすい、電車の遊具を用意。十分な数、落ち着いて遊ぶことのできるスペースがあることで安心して遊び出す。



線路の遊具と床上積み木、電車、ミニカーなどを組み合わせて遊びのイメージが広がる。



「長くなってきた!」「もっとつなげよう」遊びの場は保育室を超えて広がっていく。



「今日はここでUターン」



「遊戯室まで行くかなあ？年長さんが遊んでいるから…」



「ぐらぐらたわあ」「ゆうぎしつまええき」名前が付く。名前が付く、表示ができたことでイメージが共有される。

## 自分の世界を広げていく素材との出会い

～素材との出会いから広がるイメージ～ (例) 余裕保育室をアトリエ空間に構成

### 子どもたちの遊びの世界の広がりを考える ～想像、発見、探究、イメージを膨らませる姿～

たくさんの素材を自由に使って良い環境では、失敗感がない。素材そのものの特性を直感的に感じながら自由に実験することで、心が解放され、イメージーションが広がる。素材と対話しながら遊ぶことが、楽しさや面白さとなり、夢中になって遊ぶ姿につながっている。

#### ①「やってみよう！」が生まれる環境

- 心地よく、安心できる場 ● 遊びのきっかけ
- 魅力的で豊かな環境

#### ②「いいこと考えた！」が生まれる環境

- 目的の実現 ● 夢中になって遊ぶ場

#### ③「いっしょにしよう！」が生まれる環境

- 遊びの拠点 ● 友達とのつながり ● 遊びの振り返り



どうして消えないんだろう？  
油性マジックの性質に気付く

## 「どうしたら皆が安全に来れるかな？」

～コロナ禍でのスポーツフェスティバルの開催を考える中で～



#### 第1回 実行委員会

年長児2人と主任で対策と発信方法を考える。



#### 第3回 実行委員会【手紙・ポスターづくり】

子どもたちの人脈により仲間がどんどん増え13名に。



#### 保護者の感想

子どもはYoutubeに出演したことをとても喜んでいましたが、親としては「コロナ」という大人でも正解がわからない状況の中で、子ども同士が会議(話し合い)を通して、自分たちなりの方法を見出そうとしていることが何よりも嬉しかった。



ちょっと行き詰る。副園長先生から「皆が緊急事態宣言で、お家にいた時、あそびチャンネル(Youtube)見てたでしょ？皆がこれを伝えたいっていう思いがあったら、これを使うこともできるけどどうする？」媒体としてYoutubeもあることを提案。

# 探究が園を超えて (例) 音って何? (まちの音探し・ワークショップ)

## 「まちには音がある」

「音ってなに?」

「ピアノとかでも音ができる。」

「クラッカーを食べる音、アイスのコーン!」

「かぜがふいたり、とりがないたり」...



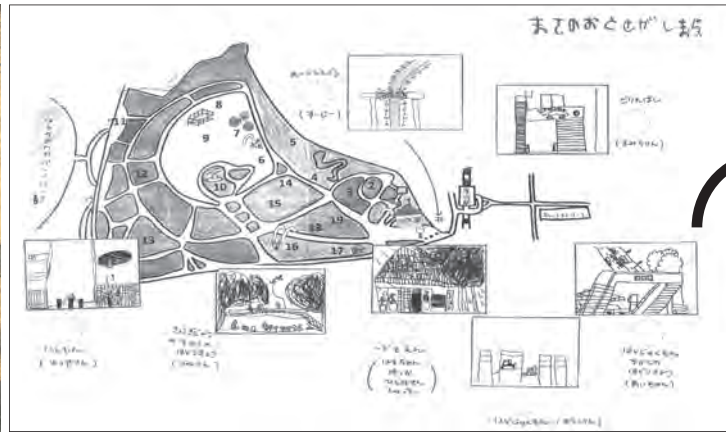
## 「まちの音も集めてみたい」

保護者と一緒のワークショップ

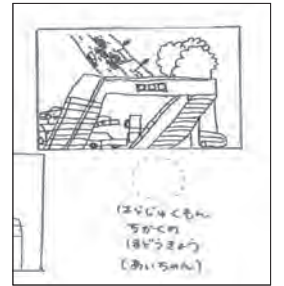
音の専門家(サウンドスタイリスト)との出会い

### 第1回ワークショップ

「はじめまして、サウンドデザインというお仕事」



スタンプラリーの案内図 チェックポイントは子どもたちの描いた絵



### 第2回ワークショップ

「音のカタチを見てみよう」

音の波形にふれる

「のりものと自然の音がたくさんあった。」

「みんなカタチがちがう」

「耳がこわれそうな音でびくんとして、音ってたのしいと思った。」

「ちいさい音はかわいい、かわいい音はかわいい」

「みんなそれぞれの音の種類がちがう。かたちもおなじのはなかった。」

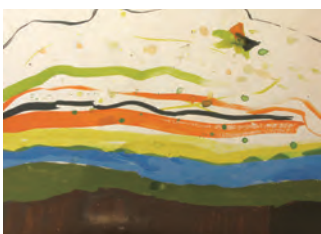
「みんなちがう音。音っておもしろいと思った。」

「おおきとかちいさいとか、線を見ればおおき音がちいさい音わかるからおもしろい。」

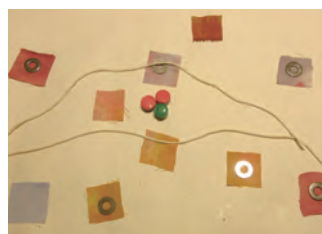
「太い線の音がびっくりしたからおもしろかった。」



## まちの音を色やカタチにしてみるのはどう?



しょうてんがいのこうじのおと



しょうてんがいのかんばんが  
たおれたおと



えきのこうじのおと



えきのこうじのおと

## 園庭環境：「あさがおクラブ」という場のデザイン

菜の花の成長を通して、時がつながり、体験がつながり、他者とつながり、思いがつながっていった。



3歳児クラスでK先生と一緒に育てた菜の花。植物を育てながら、楽しい経験があった。

→種まきました！芽が出た！  
大きくなった！花が咲いた！

年度が替わり、担任は異動。新任や新入園の友達と一緒に種とりをする。

→種がとれた！  
K先生にプレゼントしよう！  
種のプレゼントを喜んでくれた！

今後そのような場をつくることができたら…

と考えると、偶然、職員あさっての知人から「明後日朝顔を育ててみませんか」とお誘いがある。

### 「あさがおクラブ」がスタート

園の栽培状況。各学級の栽培の他、園全体の栽培エリアは赤丸部分○の2か所。「あさがおクラブ」はその一角で実施。



#### 種まきしよう



#### きのこも生えてる！



種まき、発芽、葉の触り心地、つるが伸びる様子など、そのときにやってきた幼児の気づきや驚き、疑問が生まれ、学級や学年を超えたつながりも生まれる場となる。

#### つるとせいくらべ



#### 上の葉っぱに届くかな



(夏季休業中に保育者が付けていた生長日記を見て)

「先生は花の数と色調べをしているんだね」  
「ぼくもやってみよう」



やがて、何人かの幼児がやってきて、それぞれのあさがお日記ができる。

## 遊びでのこだわり ～子どもの探究を保護者に伝える～



どうしても作りたいイメージに向かって集中して、意欲的に集中して、最後まで根気よく取り組む。

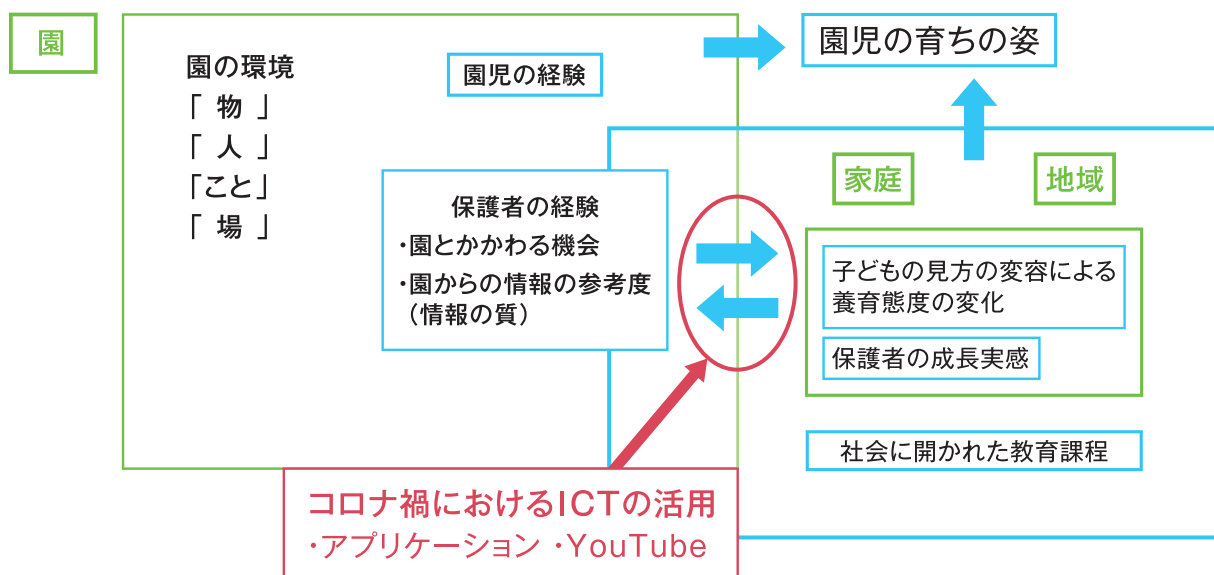


保護者の方がご覧になる完成品の一部分。テープがたくさん貼られている。



このテープを貼る過程にみられた工夫やこだわりを伝える。まとめた動画を作成し、保護者に視聴してもらう。動画「3歳児、シヨベルカーの物語」の作成。自ら目標を持ち、工夫をしながら、次は意思をもってそれを達成しようとするその姿が作品に表れていることを共に見取る。

図2:「社会に開かれた教育課程」のイメージ



### 探究過程を支える環境とメディアの分析から

本リーフレットにある事例では、活用された様々なメディアは、1人の遊び手の思いを育むだけでなく、1人では想定し得なかった新たな展開を生み出しています。例えば保育者によって設定された環境においても、その範囲に留まらない、それぞれが意志をもって取り組む、自由なやり取りもみられます。

これらの事例では、最初に子ども達の思いが受け止められ、次にその思いの実現に向けた検討の中でメディア(ICTやデジタル機器を含む)が用いられています。メディアは、気づきや展開を豊かに支える物として用いられており、単に活動を簡単にしたり、代わりになったりして用いられてはいません。メディアは、子どもや保育者の気づきから始まり、やり取りを促し、新たな場を構築しています。



当研究会前回リーフレットは、以下QRコードよりご覧いただけます。



『幼児期の深い学びの検討: 探究過程の分析 要約版』

### 研究会メンバー

秋田喜代美(学習院大学教授)、野口隆子(東京家政大学准教授)、宮田まり子(白梅学園大学准教授)  
伊藤史子(デザイナー・アトリエリスト)、大竹節子(元東京都教職員研修センター研修研究支援専門員)  
石井裕美子(品川区立西品川保育園園長)、加藤篤彦(武蔵野東学園武蔵野東第一・第二幼稚園園長)  
亀ヶ谷元讓(亀ヶ谷学園宮前幼稚園・宮前おひさまこども園副園長)、河野由紀子(品川区立第一日野幼稚園園長)  
坂井祐史(林間のぞみ幼稚園主任教諭)、山岸日登美(まちのこども園代々木公園園長)、和島千佳子(文京区立第一幼稚園副園長)

公益財団法人 日本教材文化研究財団

〒162-0841 東京都新宿区払方町14-1 電話:03-5225-0255 FAX03-5225-0256 <https://www.jfecr.or.jp>